

令和7年度 第1回 浦添市総合教育会議 議事録

1) 開催日時及び開催場所

開催日時 : 令和7年10月27日(月) 午後1時30分～午後2時6分
開催場所 : 浦添市役所 7階 702会議室

2) 出席者氏名

浦添市長 松本 哲治
教育長 銘苅 健
教育委員 下地 イツ子
教育委員 宮城 靖
教育委員 大兼 奈月
教育委員 東 健策

《事務局等》

所管部署 指導部長：内田篤
学校給食調理場所長：金城京子
浦添共同調理場副所長：赤嶺エリナ
当山共同調理場副所長：親富祖清憲
事務局 教育部長：野村美抄代
教育総務課長：大城博郎
教育総務課庶務係長：津覇大輔 教育総務課主任主事：南雲しずの
その他 副市長：比嘉克也
企画部長：宮城直哉
企画課長：島袋友木治 企画課企画係長：又吉勇介

3) 会議日程

1. 開会
2. 協議調整事項 浦添市立学校給食について
3. 閉会

4) 議題に関する出席者の発言

○教育総務課長(大城 博郎)

定刻となりましたので、これより、令和 7 年度第 1 回浦添市総合教育会議を開催したいと思います。

私は事務局をしております教育総務課の大城でございます。

本日、会議の傍聴人は特にございません。

本日は会議を、基本的にはもう公開ということで進めさせていただきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

それでは議事の進行の方ですね、市長、よろしくお願いいたします。

○市長(松本 哲治)

はい、それでは第 1 回総合教育会議をスタートしていきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

今回は教育委員会から学校給食について、意見交換したいということでの総合教育会議となっております。

まずは学校給食の現状について教育長から説明をお願いしたいと思います。

教育長よろしくお願い致します。

○教育長(銘苅 健)

本日は市長、お時間を作っていただきありがとうございます。

それでは本市の学校給食の現状の方をお話させていただきます。

本市の学校給食費は、今年度増額改定を実施したところですが、予想以上の物価高騰の影響により、給食食材の確保が厳しくなったため、9 月議会補正予算において、学校給食費の上乗せ分を議決していただいたところです。

また、近年の社会情勢等を踏まえると、今後も物価高騰が、継続することが想定され、安定的に栄養バランスのとれた学校給食を提供するためには、学校給食費を改定する必要が生じております。そこで、資料にもございますが、令和 7 年 9 月 19 日付の浦添市立学校給食調理場運営委員会委員長へ諮問しましたところ、24 日に運営委員会を開催し、各委員のご意見を頂戴した上で、10 月 10 日に答申をいただいたところです。

今後、当該答申を受け、教育委員会会議において給食費規定のある規則の改正手続きが進められるわけですが、

教育委員会会議での審議の前に、ぜひ市長のお考えをご拝聴させていただきたいと思ひまして、総合教育会議を本日開催していただいたところでございます。

以上でございます。

○市長(松本 哲治)

はい。ありがとうございます。

現状の給食費をめぐって、物価高騰が背景にありましたけれども、教育委員の皆さんのお考えも、どうぞ聞かせていただきたいと思います。よろしくお願い致します。

はい、下地委員どうぞ。

○教育委員(下地 イツ子)

今回一番懸念されることが、令和 7 年度、今年度ですね、給食費が 10 数年ぶりに改定をされて、値上げされたというところを踏まえ、さらに来年も値上げをしなければいけない状況にあるというのは、保護者にとっては負担しかないというか、その増額は今の社会情勢もいろいろ物価高騰の煽りを受けて、家庭内でもいろいろやりくりが大変な中だと思うのですけれども、さらに給食費が上がるというところは保護者にとってはとても痛手かなとは思っているところです。

ぜひ、国の補助予算なども取り入れていただいて、令和 7 年度はどうか半額措置ということもできておりますが、令和 8 年度はどうなることか、というところが不安に思われている方も、これが施

行されるとたくさんいるのではないかなと思います。

また物価上昇が今後予想される中で、栄養価というところも、保護者の皆さんは給食の中で足りているのかなという心配もあるのかな、というところで、バランスのとれた給食を提供して欲しいと日々願っているところ、もちろん今の給食、素晴らしい献立を立てていただいて、家庭ではなかなか味わえないというか、献立の中で変わったメニューや世界各国のメニューも取り入れていただいて、工夫をしていただいているのですけれども、今後もそれが継続していけるのかな、というところの懸念があるのかなと思いますが、そのあたりどうお感じになられていますか。

○市長(松本 哲治)

今おっしゃる通りで、2年連続上げないといけないのではないかな、という議論があった時に、ちょっと私も思ったのですね、連続かと。

でも、去年で今年の方まで上げておけばよかったな、とも考えたのですけれども、去年も去年である程度大幅な値上げっていうのは難しかったらと思うと、去年と今年も少し状況は似ていますけれども、いろんな物価高対策とか、県がやる給食費の半額無償とか、そういった純粋に我々だけが出す、或いは保護者のみなさんに出していただくというものだけじゃない、ちょっと他の要素も出てきているので、そういう意味では私たちが出して抑えるということもあるのですが、そういった場合にその抑えた金額で全県統一とかが始まると、それはそれで、浦添市はこれだけでいいのっていう感じで出す側からはなってしまうというものもあって、悩んだところですよ。

これからもちょっと物価高は続きそうな感じと、もう少し様子を見ていますけれども、新しい政権になってまたちょっと政策等も変わってくる様子があるのかなと思う中で、やはり今回は少し去年と似たような環境ではあるのですが、やはり少し上げるべきところで上げておこうかなというところで、2年連続というのちょっと私も感じたのですけれども、一応そういった形に考えている次第です。栄養価の充足率の話も出てきますので、この辺りもみなさんと一緒に考えてですね、じっくりと意見交換していきたいと思います。

誰か、例えば充足率とそういったことについて何かご意見あります。

○教育委員(宮城 靖)

はい。では私の方からいいですか。

○市長(松本 哲治)

はい宮城委員どうぞ。

○教育委員(宮城 靖)

本市では、平成28年から要保護・準要保護世帯以外で、困窮世帯に対して給食費の半額補助ということでスタートしています。それが30年度には、その補助が、範囲が拡大されて、全額補助ということで、困窮世帯には手厚い保護、サポートが受けられているということがあります。学校給食の補助のスタートから困窮世帯は朝晩無食事、しっかりとれない児童生徒が非常に多くいます。そういったことから考えて、国は全国の児童生徒の成長過程を考えて、エネルギー摂取量というのを公表していますけれども、国の基準を100としたときに、本市の充足率、小学校92.3で中学校が84.7ということになっていて、これは4番の栄養価充足率から見てとることができます。

それでは本県のお他市町村と比べて、本市の充足率っていうのは上位に位置しているのですが、悪い数字ではないということをお思うのですけれども、現在の物価高騰を考えると、充足率を満たすところではさらに値上げが必要になるのかなというのは、もうこれはしょうがないのかなというところで、センターからの報告からも説明があります。

現在の物価高が価格に与える影響が非常に大きいというところは市長もご存じだとは思いますが、それを見据えて教育委員会の方では、値上げを据え置きして、この充足率というものを減らしてもしょうがないのかな、という選択肢も一つ。

或いは、2年連続値上げをして、ちょっと厳しい家庭の皆さんにも、すいませんお願いしますという

ことになるのかな、というところが一つ。非常に悩ましいところであります。
ぜひ市長にお願いしたいのは、一つ目に、今年度実施している中学校は県から半額補助というところがありましたけれども、小学校の半額補助という部分についても来年度も継続して実施の検討してほしいと思っています。
それから二つ目は値上げするという過程の中で、今小学校が 500 円、中学校が 600 円値上げをする。
その半額ずつをさらに負担していただくというふうなことで言われていますけれども、その半額という部分も、ぜひ市の方でなんとか出していただければ、今年度と同じように保護者は、小学校 2,550 円、中学校 2,900 円という形で、保護者自体からすると据え置きということになるのかな、と考えています。
ぜひ持ち帰って検討していただければありがたいです。以上です。

○市長(松本 哲治)

そうですね、誰がどれくらい負担するかという議論もそうですけど、子どもたちはどれくらいのカロリー、必要な栄養分を摂取しているかということも非常に大きいので、現在国が求めている 100 に達していない。県内では上位だとしても、やっぱりこれだけの栄養価が必要だろうという栄養価は、私たちは子どもたちに食べてもらいたいというのはありますけれども。
負担のところはちょっと気になるころではありますけれども。
他にも意見ございますか。東委員どうぞ。

○教育委員(東 健策)

私も正直なところ迷っておりますけれども、今お手元の資料にあります学校給食の 1 の中で、1 行目ですね。
児童及び生徒の心身の健全な発達に資するものである学校給食が、この件に関しては小学校現場にいた立場上ですね、やっぱり栄養のバランスやカロリー計算がきちとなされた献立で提供される、安くて安全安心な学校給食が本市の児童生徒の心身の健全な発達に大きく貢献しているということを実感として持っております。
また、その辺で言いますと例えば長期休み、家庭等の事情でなかなかその食生活がうまくいってないという子どもたちも一部ございましたので、その辺でやっぱり学校給食の重要性を認識しているところがございます。
もう一点の、かつ、児童生徒の食に関する正しい理解と適切な判断力を養う上で重要な役割を果たすものであると、この文言に関しても、知育徳育体育の基礎は食育だと言われております。食育を推進するために、学校の方では給食を中心にして食育を推進していこうということでもあります。そのことが児童生徒の生きる力の育成につながるということで、取り組んでいるという現状があります。
この二つの点を踏まえて、私は提供される給食は、やはり子どもたちのことを考えると、質・量ともに低下があってはならないという立場に立っております。
手元の資料、3 番目 4 番目ですけども、こちらの栄養価充足率を見ますと、個人的にはやっぱり 100% を目指すべきだろうという立場でありますけれども、ただいかにせんやはり 2 ヶ年連続ということで、事務の皆さん、調理場の所員、関係者が、保護者の負担軽減を考えて、この小学校 500 円の値上げ、中学生 600 円の値上げが提案されたという現状がございますので、各家庭の事情を考えますと、他の委員とも重なりますけれども、給食費だけの値上げでしたら何とかなるかもしれませんが、生活必需品、食糧費を含めて、もろもろの物価が高騰しております。
ということはやはり、この給食費が上がることによって、保護者の負担が大きくなるという現状がございますので、この辺りについてまた市長のお考え、保護者の負担軽減に向けた市長の考えをお聞かせいただきたいと思っております。

○市長(松本 哲治)

さっきも少し話をしましたけれども、第1に考えるべきは子どもたちがちゃんとした食事ちゃんとした食育、いわゆる給食が目指しているような健全でかつ質も量も充足したものを食べてもらうというのは基本だと思っています。

ですから先生が今おっしゃった100%に、やっぱり100%を目指すべきだろうというのはその通りだと思っています。

負担の部分ですね。今、確かに、普段の活動からも多くの方に、今物価の高騰が非常に厳しいという声はちゃんと聴いていますので、その部分をどうするかということですよ。

給食費を上げずに、負担を保護者の皆さんに転嫁しないという方法もありますけれども、やはり給食、子どもたち、カロリーベースで考えてもある程度しっかりと給食費を上げた上で、じゃあその負担が直接保護者に行かないようにというような工夫もいろいろ考えていかなきゃならないかなと思っています。

やはり上げずに今のままのもので我慢してもらうというよりも、給食費は上がるけれども、それが親の財布に直接的な、大きな影響にならないようにこっちの方でちょっといろんな工夫ができるかな、と思いますのでまた皆さんからお知恵を借りたいと思います。

他にございますか。大兼委員。

○教育委員(大兼 奈月)

私は保護者からとして、物価高騰の影響は私たちの生活の全てにおいて影響しているのは確実だと毎日実感していて、今年度の中学生の給食費は県より半額補助があり、そして本市から小学生の半額補助という手厚い対応は、私たち保護者にとってはありがたいことで感謝しています。しかし、次年度の資料の※令和8年度の小学生の分の補助事業が未定ということで、やはり紙1枚ですが、一番保護者が気になるのは※だと思っています。

単純にやっぱり数字だけを見てみると、小学生1人2,550円の給食費だったのが、次年度5,600円に上がって、3,050円という。これがやっぱり増えたと感じる。大きな負担額と私自身も、数字を見て思ってしまうし、私も子ども5人いて、複数いる家庭だと小学生が一番負担大きくなることだと思うし、厳しく思います。

ですので、子育て世帯にやさしい浦添市だと私は思っておりますので、私からも次年度以降も、小学生への補助事業は継続して欲しいと願っております。

○市長(松本 哲治)

実際、今小学生の半額補助が浦添市でやっていますが、それがもし来年までできないということになれば全額負担になるので、なかなか、さらにそれを値上げとなると、ちょっとそれも難しいかなと思っています。

やっぱり子どもたちが食べるものですから、市が半分は持ちましようと言ったものを、未来永劫とは言いませんが、ある程度もう戻すのは難しいだろうと思っています。

ですから我々もいろんな工夫をしながら何とか半額を持つ、持ち続けるっていうことは、我々としても努力をしたいなと思っています。

その上でもやっぱりきちんとした、カロリーベース等そういったものを合わせていく、或いは他市との比較。今出ていますね、他市との給食費の値段の関係等ですね、そういうのを考えていくと、少し上げていくっていうことも、一定程度認めていかないとかなと思っていますので、ここはもう教育長も含めてですね、総合的に一番何を大切にするか。

しかしそのインパクトをできるだけ小さくするようにする。そのために補助金含めてどのようにするかということこれから考えていきたいと思っていますので、よろしくお願いします。

○教育長(銘苺 健)

今回の給食費の改定については、別紙の方にありますが、学校給食調理場運営委員会からの答申では、もう値上げもやむを得ないだろうということが出てはいるのですが、ただそこに付帯決

議、というか付記事項として、2年連続の値上がりにより保護者負担増となることから、負担軽減を図るための中学校と同様、小学校の補助金の確保に努めて欲しいということと、今期、給食費の件になりますけれども、併せてまた栄養価についても、栄養価の充足率の向上と栄養バランスを配慮することということで、その運営委員会の方でも、やはり栄養の方も気になるということで、給食費を上げれば栄養価の方が、すべて国の基準になるかということもあるのですが、ちょっとその辺はですね、また厳しいところもあるということは現状なのです。

でも今、給食費ということとこの栄養価というのは、どうバランスを取っていかうかと考えているところなんですけれども、やっぱり保護者の方からすると、今の物価高騰の中で支出するものについてとても厳しいよねというような意見はたくさん承っております。

そしてまた一月前ですかね、新聞の方に沖縄県内の市町村の栄養価の方の記事が載っていましたが、あれを見ると沖縄県内はどここの市町村も、国の定めた100%の方に届いてないということで、じゃあ栄養どうなっているかというような、そういった声もありまして、この声っていうのが別々ということではなくてやっぱり一緒に考えていっていかう必要があるのかなという気がします。やっぱり栄養価を上げるといふことには、一つはですね浦添の場合はどちらかという、残渣の方で、せっかく給食作った時に、作ったのが100%として、100%子どもたちが全部摂取しているかというところではなくて、やっぱりミルクを飲まないとか、給食を残すとかということがあって、そのマイナス分を差し引かれるので、それで栄養価の方が落ちているかなという気もするのです。私どもの方が、学校の方には食育指導でもって、子どもたちがなるべく残さないようにという指導もやってはいるのですけれども、その辺もまた私たち教育行政としては、しっかり指導していく必要があるだろうなと思っております。

東委員は小学校でしたので、学校でそういった食育の工夫等見られますか。

○教育委員(東 健策)

小学校現場の方では、恐らく現在もそうだと思いますけども、給食週間を設定して、その期間内で食育に関する掲示物、それから中には農家の方をお招きして、作り手の工夫とか、或いはまた作物を育てる際の思いや願いを聞いたりして、1年生から6年生の全学年に食育の副読本がございまして、それでまた学習を進めております。

浦添市内の場合にも、調理場の学校栄養士職員をお招きして、そういった食育に関する指導も受けておりますし、そういう意味では五大栄養素、炭水化物、タンパク質、脂質、ミネラル、ビタミンですね。

その辺りの栄養素をきちんと把握して、将来子どもたちが卒業してからもきちんとした食事がとれるような手立てを、小学校現場で小さいうちから植え付けていこうということで、食育に力を入れている現状がございます。以上です。

○市長(松本 哲治)

ちょうどいい機会なのでお聞きしたいのですが、学校の東委員と宮城委員、銘苅教育長もそうですけれども、給食というものは全部食べちゃって、ちょっと量が足りないぞっていう感じなのか。それとも意外と残るねという、どういった感じですか。

○教育委員(宮城 靖)

食品によって日々、残る、残らない、子どもたちが好きなものが出るときとかってところで差はあると思うのですけれども、全体的には牛乳がよく残っている感覚があります。

夏場は結構消費しているように見えるのですが、冬場になると飲まない。牛乳離れの子どもたちが多くなってきているところを含めると、牛乳はそうなのですが、カレーなんかだったら残らないです、みんな大好きなので。そういった部分で、この日々の料理によって残渣という問題が出てくるので。

○市長(松本 哲治)

かと言って子どもが好きなものだけあげるといってもいけないので、やっぱりそれはもう毎日全部食べて、1ヶ月全部食べて、栄養素とやっていると思うので食べて欲しいですね。下地委員や大兼委員はどうですか、お子さんはなんて言うか、おいしいとか足りないとか、まずいとかあるんですか。どんな感じですか。

○教育委員(大兼 奈月)

私の子どもたちは幸いに給食が大好きみたいで、毎朝長女は給食の献立を見て、今日は何なんだろうと言っていたのですけど。

○市長(松本 哲治)

楽しみにしていると。

○教育委員(大兼 奈月)

はい、特にもずく丼が大好きで、もずく丼を家で作ってと言われた時には、たくさんの食材を使っているのが家で作るのには本当に大変だなと思いました。給食で出た時は本当にすごいと思う。

○市長(松本 哲治)

やっぱりそこは給食のいいところですね。やっぱりご家庭でもなかなかできない郷土料理なんかも出るようになって。

○教育委員(下地 イツ子)

月一回郷土料理作ろうと思ったら結構手間暇かかるので、それが給食でいただけているっていうのはほんとありがたいことだと思いますし、郷土に親しみ持つというところで、親としてはやはり栄養があって、温かくておいしいものを食べさせたいという気持ちがある反面、ものが高くなってその供給がなかなか難しいという、なんというか思いと反比例で難しいところ。うちの娘も牛乳がちょっと苦手だったので、牛乳を残すのは多かったけれども、給食はおいしいと喜んでいて、上のお兄ちゃんたちも大兼委員のところと同じように、メニューによってその日の朝のテンションが違うっていうのは、登校する前に今日はカレーがあるぞ、やった、頑張ろうっていう、その喜びにも繋がっているのかな、と感じています。

○市長(松本 哲治)

やっぱり給食は、物自体もそうだけど、みんなと食べるっていうあの雰囲気っていうのを考えると、僕は本当に給食というのは世界に類を見ない日本の素晴らしい制度の一つだと思っているし、特に浦添市はできれば本当に沖縄で一番いい給食を子どもたちに食べてもらいたいっていうのは、いつも思っています。

子どもたちの食べるもの、口に入れるものに直接私たちの手が届くっていうのは、給食だけなんですよね。朝ご飯とか夕ご飯とか、お休みの時はできなくて、という所で給食をすごく私としては、一番いいものをあげたいと思っています。

ただそれがこの親御さんの負担になっていくっていうところはまた、ちょっと別なアプローチで考えないといけないと思っていますので、作る側も工夫してもらって、それを一緒に食べている学校側も工夫してもらえたら、我々の方にもご理解いただきながら、我々としても、政策的にもどの程度の予算、補助金等を活用できるのかということも含めてですね、進めていきたいと思っています。これからも給食というのは、学校の教育とはちょっと違うかもしれませんが、食育含めて人間形成という意味では、もう本当に大切なポイントだと思っておりますので、がんばっていききたいと思っています。

はい、教育長。

○教育長(銘苺 健)

やはり学校給食とイコールの食育教育という形だと思います。実際、米軍の学校の子どもたちと交流している時に、子どもたちが給食体験をするということで、この日本の給食のようなものはないということで、大変興味津々でした。そして前回、昨年ですか、泉州市から来た子どもたちが、学校給食、給食体験を入れたところ、中国ではこういったものはないということで、もうびっくりして、それをまた引率の先生方も、日本の給食はこんなことをしているんだということで、海外からもいい給食だなということを認められています。

そういった意味では、やっぱり日本における学校給食の体系っていうのは、大変子どもたちを等しく、子どもたちの栄養を保っていくということで、大きな役割を果たしているなということはもう十分考えることができるのですね。

あとはじゃあその給食を維持するために、どのような工夫をしていくかとなると、やはり材料費の値上げというのがありますけれども、材料費だけではなくて今市の方では、学校給食の中に、人件費、燃料費というのは、材料費とは別個に見て市の方からいろいろと予算をいただいておりますけれども、その後もやっぱりこういった物価高騰ということで、その煽りを受けているところなのですね。そしてまたそれだけではなくて、メンテナンスというところもありまして、学校給食の方を維持できるように、メンテナンスをしっかりとやらないと、これが止まってしまうと学校給食が止まるという大変大きな影響を及ぼしますので、そういった意味ではですね、経費についても今市の方から大変予算をいただいて、学校給食を見ていただいているところではあります。

ただ材料費となったときに、子どもたちの栄養価をしっかりと保っていくような工夫をしていくためには、やっぱり材料とかそういったものをしっかりと確保しなきゃいけない。

確保するためには、やっぱりそれなりの材料費というのがないといけないということで、そういった栄養価と負担というところが相反するようなどころもありますけれども、でもそういった意味では、学校給食という点で、また私たち教育委員会もですね、その学校給食における食育指導の充実をしっかりと学校とともに図るし、また保護者の方にも食育についての大切さとか、そういったものを各学校の方から通知していくというような形で、教育委員会としましてもできるところはしっかり、自分たちの分野の中でやっていこうと思っています。

ただ、今回心配しているのは、次年度の給食費が上がる。

上がらないと厳しいというような状況が今出ていますので、そのことに対してですね、いかに対応していくかという工夫が求められていると思いますが、この部分につきましては、私どもではどうにもできませんので、やはり市長をはじめですね、市長部局の方とも連携をさせていただいて、いろんな形でそういった、給食の補助といいますか、そういったことが工夫できるような形で、私たちの方もまた探していきたいと思っています。

そしてまた、是非ともまた市の方も一緒になって、この学校給食ということについて、一緒に考えていただければありがたいなと思っていますので、今後ともですね、情報共有させていただきながら、是非とも子どもたちの笑顔のために、楽しいおいしい給食ということでやっていきたいなと思っていますので、今後もまた市長におかれましては、いろいろと勉強させていただいて、よろしくお願ひしたいと思っていますところ です。

○市長(松本 哲治)

はい。ありがとうございます。そろそろ時間でもありますが、何か他にご意見等ございますか。いい機会ですからどうぞ。下地委員。

○教育委員(下地 イツ子)

現状ですね、材料費が高騰していくとか、物価が高騰していくとか、私たちが止められるものではない、どうしようもないものではあるのですけれども、魅力ある給食、おいしい給食で、給食は先

ほどにもお話に出ていましたように、ただ食べて栄養をとるだけではなくて、そこに付随する学びというのもたくさんあると思うし、うちの子もそうでしたけど、学校に行く喜び楽しみの一つでもあるかと思うので、おいしい給食がそこにまた結びついて、浦添市の子どもたちが、浦添市の給食がおいしい最高と思ってもらえるように、保護者の皆様にもそういった情報提供、子ども達がいかにこの給食によって学校生活が充実に繋がっているかというところの周知も併せて、委員会としては大事なかなということを考えました。

○市長(松本 哲治)

ありがとうございます。

半額政策を来年以降も続ける、私としては続けようと思っています。

しかしそれでも、値上げした分については若干親の負担が増えるかなというところではあります。

しかしですね、給食費一つにしてもいろんな切り口があるじゃないですか。

例えば栄養価の問題が出てくる。他の市町村は幾らなのか、内容もどうのこうのとか、いろんな話がありますので、ぜひ委員の皆さんはもうもちろんなさっていると思いますが、これから給食費の話がいろいろ出るときに、例えば先ほど教育長が言ったようには見えないところ、やはりそのガソリンや、人件費もそう、作っている人たちのことも考えると、やはり親だけに全部もお任せしているのではなくて、市としてもできる限り今努力している途中だということを踏まえて、でもやっぱり最後に帰ってくるところが一番いいものを子どもたちに食べてもらおうというところで、皆で協力、ご理解、お願いしたいというところでございます。

他に何かよろしいでしょうか。

今日、本日いただいた皆さんのご意見をきちんと元にしながらですね、改めて最終的な判断として、協議をしていきたいと思えます。よろしく願いいたします。

よろしいでしょうか。

それでは、これで第1回の総合教育会議を閉会といたしたいと思えます。

本日はどうもありがとうございます。